



WAW!2022 コンセプトノート

(参考)女性の平和・安全保障への参画を巡る現状と課題

国際社会の平和と安全保障への女性の参画とその役割を初めて明記した、国連安保理決議第1325号が採択されて20年以上が経過しました。しかし、世界平和はいまだ実現できていません。本年2月には、ロシアによるウクライナ侵略が始まり、国際秩序の根幹を揺るがしています。アフリカや中東の複数の国々では、内戦や政治的に極めて不安定な状況が続いてきました。

新型コロナの感染拡大により、一部の紛争影響国や脆弱国では、暴力を受けても外出制限により訴える手段を失う等、女性たちの置かれた立場が一層深刻なものとなったとされています^(注1)。ウクライナでは、女性や子どもを含めた民間人が大きく被害を受け、ロシア軍による女性に対する性的暴力も報じられています。避難民の9割は女性と子どもであり^(注2)、彼らを標的とした人身売買等の危険にも対処が必要です。アフガニスタンでも、イスラム原理主義組織のタリバーンが首都カブールを制圧し、2001年以降の20年で着実に回復してきたアフガン人女性たちの権利は著しく減退しています。女性たちは職を追われ、政治に参加できず、ヒジャブ着用を再び義務付けられ、女子教育はいまだに完全には再開されていません^(注3)。

世界的な物価高やエネルギー・食糧の供給問題によって、紛争影響国や脆弱国における女性たちの生活の一層の悪化が懸念されています。

こうした中で、女性たちは非力な存在なだけなのでしょうか。国連安保理決議1325号では、女性は被害者という受け身の立場だけでなく、紛争解決・予防、平和維持、平和構築の積極的主体であると記しています^(注4)。女性の人権を守るためにも、平和な社会を作るためにも、政策や全ての取組において、女性の参画を進めていくことが必要です。ある研究では、和平交渉に女性が参画した和平合意は、女性が参画していないものよりも、和平が平均15年長く続くと報告されています^(注5)。国連女性機関(UN Women)の統計でも、平和構築に関わる軍や警察、議会等の意思決定プロセスに女性が参画することで、女性が参加しない場合に比べて、和平が長く維持されるとも指摘しています。女性が参画することで多様性、多様な存在を認める寛容さが生まれるのかもしれませんが。また、2015年に国連安保理決議第2250号^(注6)が採択されて以降、国際社会では、平和・安全保障に関する意思決定への若者の参画も重視されるようになってきています^(注7)。

もう1つの留意すべき点は、紛争下で性的暴力を受けた人たちへの対応です。被害者が社会から疎外されたり、孤立したりしないよう、むしろ、経済的に自立した社会の一員として貢献できるようになるよう、支えていくことが重要です。

長年、日本は、紛争下の性的暴力国連事務総長特別代表(SRSG-SVC)事務所をとおして、法の支配の定着、被害者の司法へのアクセスの強化支援を実施し、国際刑事裁判所(ICC)への拠出を通じて法の支配による平和定着に貢献しています。また、ICCの被害者信託基金(TFV)及び紛争関連の性的暴力生存者のためのグローバル基金を通じて、生存者の経済的自立等を支援しています。

国際女性会議 WAW!2022 では、上記のような背景・目的を踏まえ、(1)コロナ禍やウクライナ侵略等によって一層脆弱な立場に置かれた紛争影響国の女性や若者の現状、(2)支援側の取組や現地の人々の活動の好事例、(3)国際社会全体としてなすべきことは何か、私たちができることは何かについて議論し、国連安保理決議第1325号や第2250号の中核にある「平和の担い手としての女性や若者」を増やし、支えていく、あるいは、自分自身がその担い手となっていくにはどうすべきかを考える機会としたいと思います。

(注1) [Office of the special representative of the secretary-general on sexual violence in conflict, "Conflict-Related Sexual Violence – Report of the United Nations Secretary-General"](#) (英語)

(注2) [UN Women and Care International, "Rapid Gender Analysis of Ukraine"](#) p.10 (英語)

(注3) [UN Women, "Press briefing: The situation of women and girls in Afghanistan"](#) (英語)

(注4) [United Nations, "S/RES/1325. Security Council Resolution on women and peace and security"](#) (英語)

(注5) [International Peace Institute, "Reimagining Peacemaking: Women's Roles in Peace Processes"](#) p.12

(英語)

(注6) [United Nations Security Council, "Resolution 2250 \(2015\)"](#) (英語)

(注7) [United Nations Security Council, "Youth and peace and security, Report of the Secretary-General"](#)

(英語)